

学校名 東広島市立平岩小学校

学校長名 校長 中西 秀道 印

## 1 研究主題、研究内容・方法等について

### ① 研究主題

「社会を見つめ、未来を問いつける社会科・生活科教育の創造」  
— 根拠をもとに判断し、社会参画の意識を育む授業づくり —

### ② 主題設定の理由

【小学校学習指導要領の改訂内容から】

改正教育基本法（平成18年）や改正学校教育法（平成19年）への対応、PISA型読解力に代表される世界標準の学力形成という課題の解決、児童の学習状況の課題の克服などをねらいとして、次の5点が改訂された。

- ① よりよい社会の形成に参画する資質や能力の基礎を培うこと。
- ② 言語活動との関連を図り、思考力・判断力・表現力の育成を重視すること。
- ③ 我が国の伝統や文化、社会参画にかかわる学習内容の充実を図ること。
- ④ 作業的、体験的な学習や問題解決的な学習を充実させること。
- ⑤ 学習や生活の基盤となる知識、概念や技能の確実な習得と活用を図ること。

【広島県小学校社会科研究協議会の研究主題の改訂趣旨から】

昨年度までの研究主題は「豊かに感じ、深く考え、ともに高まり合う社会科学習」であった。問題解決のための思考力・判断力を育むために、出会いと発見のある学習材が開発され、子どもたち自らが問いを見つけ、調べて考え、表現し、仲間とともに考えを深めていく社会科学習が創造された。これらの学びが先行き不透明なこれからの時代に活用されるためには、社会的事象を知る・わかるだけでなく、その背景を熟考し、それに対する自分なりの意見や考えを持ち、それを表現しながら社会への参加・参画を考えていく力が不可欠である。まさに、よりよい社会や未来の実現のために学び続け、調べ続け、考え続ける姿こそが大切である。生涯にわたって学び続け、その学びをよりよい社会の実現に向けて生かすことができるように、本年度の広島県小学校社会科研究協議会の研修主題が、「社会を見つめ、未来を問いつける社会科教育の創造」と設定された。

【本校の昨年度の成果と課題から】

昨年度は、研究主題「豊かに感じ、深く考え、ともに高まり合う社会科・生活科学習」を研究主題にかかげ、「地図・資料の読み取り」と「焦点をしぼった意見交流」の視点からアプローチした。

成果

- 地図・資料の読み取りのものさしを活用したり、イメージできやすい資料を作成して提示方法を工夫したりすることで、たくさんの気づきや疑問を見つけたり、必要な情報を読み取り、複数の資料を関連づけて考えたりする児童が増えた。特に「挿絵資料」「グラフ資料」「読み物資料」「写真資料」「自作ポスター資料」「大型マップ」などの多様な資料の作成と活用のポイントが明らかになった。
- 焦点をしぼる意見交流では、社会科においては「対立する2つの意見交流」「多くのものから選択する意見交流」「総合的・関連的に考える意見交流」生活科においては「クイズで意見交流」「ひみつを意見交流」「試して意見交流」などの方法が有効であった。

- 「社会科の時間に自分の考えをもつことができますか。」という質問に対して肯定的評価が80%から88.9%に高まり、「友達の意見を聞いてなるほどと思うことがありますか。」という質問に対して肯定的評価が83.6%から95.7%に高まるなど、自分で調べて考え、友達との意見交流を楽しむ児童が増えた。
- 社会科の基礎的・基本的な知識を、興味関心を高めながら確実に習得できるように、学年毎の知識内容を明らかにして、地図記号、都道府県名、主な国名などを階段に掲示したり、特設の「平岩タイムで」でその習得を図ったりすることができた。

#### 課題

- 課題の解決にせまる中心資料を精選するとともに、学習問題づくり、解決への見通し、資料の収集など単元全体に関わって児童の主体的な学習になるような手立てを工夫する必要がある。
- 根拠を明らかにするために、実感したことや体験したことを抛り所に考えを深め、必要な資料を収集して、社会的事象の意味や意義を解釈したり、事象の特色や事象間の関連を説明したりして自分の考えを論述できるようなノート指導のあり方を明らかにする必要がある。
- 多様な考えを分類整理したり、比較・関連付け・総合したりしながら学習を再構成して、社会的事象を多面的・多角的に考察し、公正に判断できるように多様な考えを吟味する学習過程のあり方を明らかにする必要がある。

#### 【本校児童の実態から】

本校児童は、基礎的な地図や資料の事実を読み取り、そこから疑問を見つけたり、自分なりの考えを記述して発表したりすることはできるが、多様な資料から考えの根拠を的確に表現したり、多様な意見を整理して判断理由などを吟味したりすることについては課題がある。

これらの理由を踏まえると、これからの社会科・生活科を担う指導者は、①学習している内容は子どもたちの社会生活とどのようにかかわっているのか。②子どもたちの考えは何を根拠にしてどのように構築されたのか。③多様な意見をどのような視点でどのように判断すればよいのか。④子どもたちが社会に参画するためにはどのような意識や能力を育むことが大切なのか。などの視点で授業を分析する必要がある。

そこで、本校では、広島県の研究主題である「社会を見つめ、未来を問い続ける社会科教育の創造」を継承しつつ、副題を昨年度の「地図・資料の読み取りと焦点を絞った意見交流を通して」を発展させて、「根拠をもとに判断し、社会参画の意識を育む授業づくり」と設定した。

### ③ めざす子ども像

○社会を見つめる子ども・・・「社会を知る子ども、社会がわかる子ども」

- ・子どもが社会的事象と出会い、「どのように、どのような」と問い、事象の過程や特色・構造を表現するとともに、社会的事象に対して「なぜ、どうして」と迫ることにより、目的と手段、条件と結果、原因と結果の関係を表現できる子ども

○未来を問い続ける子ども・・・「社会に生きる子ども」

- ・自分なりの意見や考えを持ち、「何をすべきか、どのような解決策が望ましいか」を考え、表現しながら社会への参加・参画を模索する子ども
- ・人の思いに共感し共有することのできる心情や、様々な事象を多面的・多角的に考えたり、公正に判断したりできる子ども
- ・よりよい社会や未来の実現に向けて問い続け、調べ続け、考え続ける子ども

### ④ 研究仮説

児童とのかかわりが意識できる教材を開発し、言語活動との関連を図って考えの根拠や判断する視点を明らかにさせれば、児童は社会を見つめ、未来を問い続けることができるであろう。

## ⑤ 研究内容

- (1) 社会参画の意識を育む授業づくりのためには、どのような教材を開発して、どのような単元構成を設計すればよいのか。「単元構成のあり方」・
- (2) 考えの根拠や判断の視点を明らかにするために、どのような事実や資料をもとに、どのような言語活動をどのように効果的に活用すればよいのか。また、どのようなノート指導が有効なのか。  
「根拠や判断の視点になる言語活動モデルの作成とノート指導のあり方」

## ⑥ 研究方法

- (1) 授業研究…各学年、各ブロックからの授業提案（全教諭）による仮説の検証
- (2) 理論研究…講師を招いての研修
- (3) 実践交流…社会科と生活科を中心に、根拠、判断、社会参画をキーワードにしての問題  
発見力、情報活用力、思考力、判断力、表現力を育てる授業の検証

## ⑦ 検証の指標

単元構成の中で、授業を5つに類型化し研究テーマに迫る。

【社会参画の意識を育む教材の開発と単元構成・・・社会を見つめることのできる授業】

○教材との出会いに目を輝かせ、自分と社会生活とのかかわりに着目できる授業。

【問題発見力育成の授業・・・社会を見つめることのできる授業】

○「どのように」「なぜ」「どうすべきか」などの疑問（問題）を発見し、学習の進め方、調べ方、取り組み方が分かる授業。

【情報活用力・思考力育成の授業・・・社会を見つめることのできる授業】

○考えの根拠が素朴な気づきから知的な気づきへ高まり、地図・資料の読み取りをもとに、その背景を熟考し、社会的事象の意味・意義を説明したり解釈したりできる授業。

【判断力育成の授業・・・未来を問い続ける授業】

○読み取った資料から、理由を考えて適切な価値判断、合理的な意思決定ができる授業。

【表現力育成の授業・・・未来を問い続ける授業】

○意見や根拠を客観的にわかりやすく説明したり、多様な判断理由を整理・分析して判断の視点を明らかにしたりできる授業。

○授業の終末に学習したことを、キーワードをもとに学習のまとめを書くことのできる授業。  
学習したことをもとに自分の考えを論述し、社会に発信し、社会から受信できる授業。

【検証方法】

- (ア) 社会参画の意識を育む授業づくりについて検証
  - ・ 社会的事象への興味関心の向上と児童の問題発見力の向上
- (イ) 思考力が向上したかについての検証
  - ・ 資料の読み取りの量的・質的な向上
- (ウ) 判断力が向上したかについての検証
  - ・ 理由をともなった価値判断、行動判断の向上
- (エ) 表現力が向上したかについての検証
  - ・ ノート記述の質的な向上
- (オ) 検証方法
  - ・ 授業観察によるチェックシート分析
  - ・ 児童への事前、事後アンケートの実施
  - ・ 児童のノート分析

## 2 検証計画

- 4月 研究計画の確認 授業計画作成
- 5月 授業研究
- 6月 授業研究（地域公開）
- 7月 授業研究
- 8月 前半の授業分析をもとにした中間まとめ
- 9月 授業研究
- 10月 授業研究（広島県小学校社会科研究大会）
- 11月 授業研究
- 12月 研究紀要について検討
- 1月 授業研究
- 2月 研究紀要完成 研究のまとめ

## 3 校内研修計画

期間	ねらい	目標	研究授業など
前期前半	<ul style="list-style-type: none"> <li>・社会参画の意識を育む教材の開発と単元の学習内容の構造化を図る。</li> <li>・根拠や判断の視点となる言語活動モデルとノート指導のあり方を考える。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業研究を重ねる中で教師一人一人が教材及び単元の学習内容の構造化ができるようになる。</li> <li>・地図・資料を読み取り，社会的事象の意味や意義の説明や解釈の仕方を考えられるようになる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・指導案の書き方研修</li> <li>・3～6年社会科授業研究</li> <li>・1，2年生活科授業研究</li> <li>・理論研修</li> </ul>
夏季休業中	<ul style="list-style-type: none"> <li>・前半の成果と課題を明らかにする。</li> <li>・授業力の向上を図る。</li> <li>・社会科研究の理論を学ぶ。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・問題発見力・情報活用力思考力・判断力・表現力が高まったのか，また社会と自分とのかかわりを意識できたのか，児童の姿から明らかにする。</li> <li>・模擬授業で授業力を高めあう。</li> <li>・大学教授より社会科研究の理論を学ぶ。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業検証</li> <li>・広島県小学校社会科研究大会に向けての学習指導案検討</li> <li>・模擬授業研修</li> <li>・理論研修</li> </ul>
後期前半	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業研究の成果と課題を出し合い，児童の変容の検証をする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・児童実態を出し合う中で，問題発見力，情報活用力・思考力・判断力・表現力が高まったのか，そして社会参画への意識がどのくらいついたのかについて検証する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・研究大会で授業公開</li> <li>・児童の実態をもとにした授業の検証</li> </ul>
後期後半	<ul style="list-style-type: none"> <li>・成果の検証から，次年度への計画を練る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本年度の課題を明らかにして，次年度の研究主題を考える。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・実践の積み上げ及び検証</li> <li>・理論研修</li> </ul>

## 4 研究公開の予定について

- 公開予定日 平成23年 10月 26日（水）
- タイプ 普及型
- 公開範囲 広島県内小中学校
- 公開内容等 第47回広島県小学校社会科教育研究大会 社会科・生活科・特別支援教育公開